

五所川原市立五所川原第二中学校

三年 岩崎 亜由美

強さとは何だろうか。優しさとはなんだろうか。優しい人という考えたり励ましてくれたりする。時には怒ることもあるけれど、それは愛情。私が社会に出て行くときに恥ずかしくないように最低のマナーを身につけさせるために怒ってくれる。母の私に向ける全ての行為は愛情である。相手のことを思って厳しいことを言ったり叱ったりすることが優しさだと思う。

では、強さとは何だろうか。その優しい気持ちを持ち続けることだと私は思う。

自分の気持ちと他人の気持ち。自分の気持ちはよく分かるが他人の気持ちとなると簡単には分からない。でも、人がどう考えているか分からないからといって自分の気持ちばかりを押し通していたら周りには誰もいなくなってしまう。

「他人の考えていることなんて分からないし、それに人の気持ちちって変えられないものでしょ。」

友達からこんなメールが届いた。その言葉を一度は納得しかけたが、もう一度考えてみた。

(本当にそうだろうか?)

他人の考えていることなんて分からない、という言葉。心の中には色もなければ形もない。だから目で見ることには誰にも出来ない。もし、気持ちが目で見えたらどうだろうか。想像してみた。隠しておきたい秘密や心の中まで全てが他人に知られることになってしまう。反対に知らなくてもいい他人の気持ちまで全て知ってしまうことにもなる。お互いに気まづさを感じると思う。だからと全て分かったりなかったりしたのでは、人間関係が味気ないものになってしまう。

自分の気持ちを誰かに分かって欲しいときシグナルを送る。言葉で直接自分の思いや感情を伝えることもある。また表情や草で気持ちを表すこともある。嬉しいときは嬉しい顔、悲しいときは悲しい顔、落ち込んだときはしょんぼりした顔になる。だから、自分が分かるうとさえしていれば、他人の気持ちに気づいてあげられることが出来ると思う。

人の心は変わってしまうものという言葉。時が流れると同時に心も変化していく、ということだ。心の変化は悪いことばかりではない。

例えば友達と喧嘩をしたときは、もうあの子とは口もきかないと思うけれど、少し時間が経つといつの間にか仲直りをしている。こんなこともあった。小学校では一週間に一回朝マラソンとい

うものをやっていた。私はマラソンなんて大嫌いだった。それなのに最高学年だからという理由で最低でも五周は走らなければならぬ。しかし、こんなのが週に一回あるなんて耐えられない、思っていた。しかし、中学生になって振り返ってみるとあのマラソンのおかげで体力もついたし、部活動も三年間やってこられたと思えるようになった。

自分の気持ちでさえ、時の移り変わりと同じように変化する。だから他人の気持ちもまた同様に変化することもあるだろう。初志貫徹という言葉や初心に返るといふ言葉がある。もちろん強い意志を持つて変わらぬままにいることも大切なときもある。

でも、時には変わることも大事だったり良かったりすることもあると思う。初めの気持ちを変えないことも勇気だけ、良いように転がるならば変えることも勇気だと思う。

人は一人では生きていけない。誰かを支えたり支えられたりして生きていく。私自身何度も家族や友達、先生方に助けられた。人間関係で悩み、部活動のことで悩み、勉強のことで悩む。その度に誰かが側にいて話を聞いてくれたり励ましてくれたりしていた。

これから先、生きていく上でたくさんの楽しいことが待っていると思う。それと同じくらい苦しいことや悲しいことなども待ち受けていると思う。そんな時はきっと周りの人の優しさにも頼ってしまうかもしれない。でも、今度は頼るばかりでなく、私自身も誰かの心に耳を傾けたいと思う。

相手が放つ、言葉や表情仕草などのシグナルをきちんと受け止めたかと思う。言葉や表情仕草などのシグナルをきちんと受け止めたかと思う。言葉や表情仕草などのシグナルをきちんと受け止めたかと思う。言葉や表情仕草などのシグナルをきちんと受け止めたかと思う。